

福島第一原子力発電所多核種除去設備(ALPS) バッチ処理タンク2Aにおける水滴の発見について

< 参考資料 >
平成25年6月17日
東京電力株式会社

■ 概要:

6月15日

23:00頃

当社社員が、多核種除去設備(ALPS)建屋内バッチ処理タンク(2A)タンク下の漏えい水受けパン内に変色した水の滴下跡を確認、および新たな滴下は発生していないことを確認。周囲を確認したところ、同タンク表面に結露水が付いていること、溶接線の近傍に一部変色している箇所があることを確認したため、念のためタンク下に滴下水を受ける為の容器を設置

6月16日

滴下状況の監視を行い、結露水の発生の継続および新たな変色した滴下水がないことを継続して確認

タンク表面の溶接線近傍の変色は、錆の影響または漏えい等の可能性が考えられることから、詳細調査の必要があると判断

15:00頃

保安検査官に報告

16:00頃

溶接線近傍の変色箇所及びタンク表面のサーベイ実施

18:17

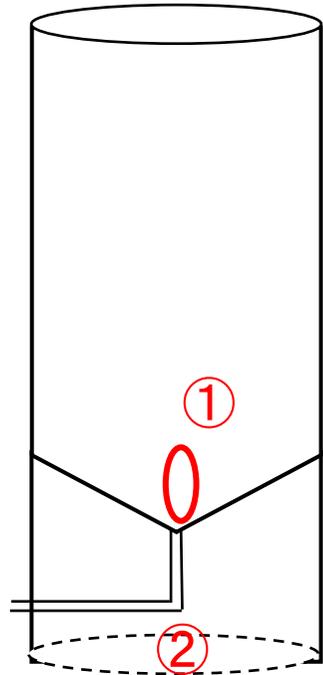
多核種除去設備(ALPS)A系停止操作開始

23:20

多核種除去設備(ALPS)A系停止

■ 原因:調査中

現場確認状況



バッチ処理タンク構造図

変色した水の滴下跡
があることを確認

溶接線近傍に一部変色(茶色)
している箇所があることを確認



①タンク下部状況



①タンク下部状況(拡大)



②漏えい水受けパン状況

■ サーベイ結果

- ・ バッチ処理タンク表面(変色が確認された溶接線近傍):7900cpm
- ・ バッチ処理タンク表面(変色の無い溶接線近傍):700cpm
- ・ タンク下の受けパン(変色した水の滴下した部分):4300cpm
- ・ タンク下の受けパン(変色した水のない部分):1300cpm

※バックグラウンド:180cpm

多核種除去設備(ALPS)全体系統図

